

スマート農業の理解深める 「2019花巻市スマート農業推進シンポジウム」を開催



スマート農業の技術について聞く参加者たち

J Aや花巻市、県などで組織する花巻市農業振興対策本部は2月6日、J A総合営農指導拠点センター（花巻市野田）で「2019花巻市スマート農業推進シンポジウム」を開きました。

市内外の農業者など約300人が参加。北海道岩見沢市のいわみざわ地域ICT農業利活用研究会の道下一記副会長がGPSガイダンスシステムを活用した事例を紹介したほか、県中央農業改良普及センターの白井智彦さんが同本部の実証事業について報告しました。白井さんは「入門機で技術を実感してもらうことが大切」と話しました。

会場内には、17社がドローンなどの最新機器を展示し、関心を集めました。

継続した優良種子生産に向けて 第34回岩手県種子生産者全体研修会

岩手県種子生産者協議会と（公社）岩手県農産物改良種苗センターは2月5日、花巻市内の温泉で「第34回県種子生産者全体研修会」を開きました。

県内の種子生産者やJ A、行政、関係機関など約220人が参加。同市の上田東一市長が「花巻市これからのまちづくり」と題して講演したほか、県中央農業改良普及センター上席普及員の中西商量さんと渡邊麻由子さんが種子法廃止に基づき7年ぶりに改訂した「種子生産の手引き」について解説しました。

また、同会では特別功労者として1人、優良種子生産者として水稲・小麦・大豆の3部門で10人を表彰しました。



市が取り組む主な施策やスマート農業などについて紹介した上田市長

所得増大・生産拡大に向けて 営農指導員が研究内容を発表



キュウリホモブシス根腐病などについて発表した小原職員

J Aは1月17日、J A総合営農指導拠点センター（花巻市野田）で「営農指導員研究発表会」を開きました。

J A管内各地域の営農センターの代表10人が、米穀・園芸・畜産について研究内容を発表。農業者の所得増大や農業生産の拡大に繋がる研究発表に、参加したJ A役職員約130人は真剣に耳を傾けました。最優秀賞は北上地域営農センター園芸販売課の小原悠馬職員が受賞。1月29日から2日間開いた「J A岩手県営農指導員研究発表会」でも発表をしました。

小原職員は「発表会を通して学んだことを、今後の営農指導に生かしていきたい」と話しました。

看板に込めた想い 花巻地域青年部笹間支部が全国大会で表彰



共済連賞を受賞した笹間支部の立て看板

花巻地域青年部笹間支部は、「平成30年度J A青年組織手づくり看板全国コンクール」でJ A共済連賞を受賞しました。

2月19日から2日間開かれた、第65回J A全国青年大会で表彰されました。看板には、「若者の農力で地域を元気に」という文字が書かれ、収穫した野菜を持った農業女子がこちらを振り返る様子はさわやかな若者らしく映り、農業の魅力・かっこよさを表現するとともに女性の農業参加をPRする内容が評価されました。

高橋支部長は「地域から若手農業者を増やし、若い力とともに農業を盛り上げたい」と話しました。

地域の生活支えるスノーバスターズ 湯田・沢内支店がボランティア活動



相互扶助の精神で、除雪作業をする支店職員たち

湯田支店と沢内支店は、高齢者や体の不自由な人など自力での除雪が困難な世帯を対象に、地域住民やボランティアが除雪を行う「西和賀町スノーバスターズ」に協力し、特別豪雪地帯の生活を支えています。

2月17日には、支店職員15人と同町立湯田中学校の中学生4人が作業しました。班ごとに分かれて、清水ヶ野地区と湯田地区の4世帯を除雪。雪が降る中、室内に明かりが入るよう、数メートルにも積もった屋根から落ちた雪を重点的に除雪しました。

沢内支店の高橋喜彦支店長は「除雪活動を通じて、特別豪雪地帯の雪との戦いの一助になりたい」と話しました。

燈火の揺らぎ見つめ、幻想の世界へ 西和賀町内の雪あかりに参加



午前中から作業にあたり、最終仕上げをする職員たち

J Aは2月9日、西和賀町内で開かれた「雪あかり2019 in しわが」に参加しました。

西和賀統括センターと西和賀地域営農センターの職員が、同センター敷地内（同町沢内）で雪あかりを制作。平日の休憩時間を使い準備した高さ約3m、横幅約15mの雪壁を、同日に約20人がスコップを使ってくり抜き、旧J A西和賀のキャラクター「西和賀ファミリー」を飾ったほか、バケツを使って80個以上の雪あかりを作りました。

瀬川公統統括センター長は「職員が地域の文化を誇りに持ち、積極的に参画して地域に貢献しようと毎年参加している」と話しました。